

石川県立美術館だより

平成16年5月1日発行 第247号



富山県指定文化財 北野社頭阿国歌舞伎図屏風
福野神明社蔵



部分

日本の四季 春・夏の風物

4月24日(土)～5月16日(日)会期中無休
午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

目次

| | |
|----------------------|---|
| 日本の四季 - 春・夏の風物 - | 2 |
| 春の優品選・後期 | 3 |
| 木の表情、常設展示室 主な展示作品 | 4 |
| 連続講座報告・第4回(美術館よもやま話) | 5 |
| 展覧会回顧(北陸の人間国宝展) | 6 |

| | |
|---------------------|---|
| 図書閲覧室NOW、各地の展覧会 | 6 |
| 第1回美術館バスツアー参加者募集 | 7 |
| ミュージアムコンサート、5月の行事案内 | 7 |
| 所蔵品紹介、次回の展覧会 | 8 |
| 移動美術展 今年は今都町で開催! | 8 |

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

企画展示室(第7~9展示室)

当館企画展

日本の四季

- 春・夏の風物 -

4月24日(土)~5月16日(日)会期中無休

主催 / 石川県立美術館



蒔絵梅椿若松図重箱
伝尾形光琳作



春野駒時絵硯箱 塩見政誠作
金沢市立中村記念美術館蔵

自然とともに暮らしてきた日本人が作り上げてきた、自然を主題とする美術工芸品は、自然が主役であり、自然の姿が日本人の心を代弁して描かれています。「花鳥風月」の言葉で代表される日本の自然美や四季の移ろいを的確に感じ取ることができるのは、樹木や草花が示す自然の情景です。そして、日本人特有の微妙な感受性の世界は、こうした自然美によってはくまられたものであり、日本美術の根底には、自然に対する優しい情感が潜んでいるということができません。雪が残る冷気が漂う早春の空気の中で、高貴な匂いとともに一輪ずつ咲き出す梅、日本人は早春といえはまず梅を思い起こします。そして梅に続く桜を想い、温かい春の訪れを待つのです。雪に閉じこめられた冬が終わり、春の息吹とともに萌え出る春草、華やかな春の花木とは違い、ひそやかに、楚々とした春草も日本人の琴線にふれ愛されてきたものです。奈良時代までは梅をさしていましたが、平安時代以後は、花といえは桜をさすように、日本人に最も親しまれ、愛されてきた花木は桜です。咲いたかと思いつ時がくれば一斉に惜しげもなく散ってしまう桜の花に、人は自分の運命や人生までも投影しています。古くから、桜の名所である吉野山等を描いたもの、桜そのものを描いたもの、桜の下での遊楽を描いたもの等々、桜を用いた美術工芸品は多くあります。桜の一種である枝垂れ桜、春風に葉をなびかせる柳うす紫の長く垂れ下がった花房の藤、これらの優雅で気品に満ちた姿態は、「さがり物」、「しだれ」の美として、賞賛されてきました。美しく可憐な朝顔、庭の片隅にひっそりと花をつける夕顔、梅雨に濡れて鮮やかな色の花をつける鉄線などの「つる物」も古くから人々に愛され、季節の移り変わりを楽しませてくれるものです。そして、このつる物は、その美しさや可憐さからばかりでなく、空間処理をする場合の技術的な要因から、絵画だけでなく、工芸品の意匠としてよく用いられてきました。また、牡丹、罌粟の花、紫陽花、杜若、菖蒲、百合等の夏の

| | | | |
|--------------|----|--------------|-----------|
| 一般 800円 | 個人 | 一般 650円 | 団体(20名以上) |
| 大学生 600円 | | 大学生 500円 | |
| 高中小生 300円 | | 高中小生 200円 | |

観覧料

松藤時絵文庫
緑地桐鳳凰文唐織

当館蔵

吉野山蒔絵文台・硯箱

金沢市立中村記念美術館蔵
高津古文化会館蔵

色絵梅花図平水指

野々村仁清作

当館蔵

黒油蒲公英図茶碗

尾形乾山作

当館蔵

四季耕作図屏風

久隅守景筆

当館蔵

藤花牧牛図屏風

長谷川宗圓筆

滋賀県・盛安寺蔵

観桜遊楽図屏風

富山県・善徳寺蔵

洛中洛外図屏風

富山県・勝興寺蔵

柳橋水車図屏風

石川県・大乘寺蔵

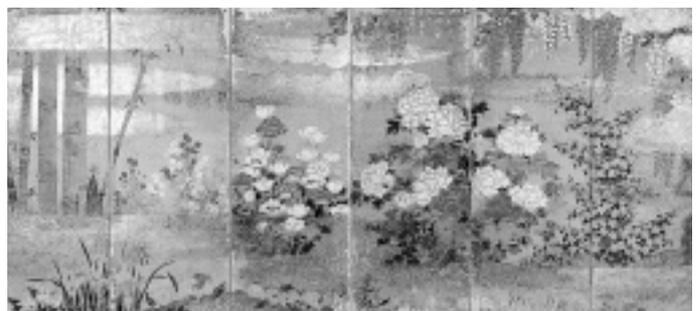
主な展示作品(重要文化財)

県指定文化財)

草花もとりあげられてきました。人との関係を強調する意味で、本展では、草花に瓜、茄子、南瓜等の野菜も加えました。また、これらのものは、単独で取り上げられることもありますが、梅と鶯、松と藤、藤棚、牡丹と獅子、柳に燕、柳に橋・水車・蛇籠等々、他の景物と組み合わせられてよりその効果を上げる場合が多いようです。今日残る草花図の屏風などを見ますと、秋の草花を題材としたものが多く、春夏の草花を題材とするものは少ない。四季を愛する日本人ですが、春の訪れを喜ぶ心と行く秋を憂える気持ちは好対照をなしています。はなやいだ春の気分は桜に代表され、秋の憂愁は秋草に語らせる場合が多いということです。秋草の世界は、仏教の無常観に日本人の抒情性を盛り込んで、自然美に対する情緒的感性を高め深めていった世界です。際立つ違いを持つ春夏草と秋草を意識して、本展は四季のうち春と夏を取り上げました。春・夏の風物をお楽しみ下さい。



柳橋水車図屏風(左隻部分) 大乘寺蔵



四季草花図屏風(右隻)

常設展示室(前田育徳会展示室)

特集

春の優品選

4月22日(木)~5月16日(日)後期

優品選後期の展示品を紹介いたします。前ページに紹介したように、企画展示室では「日本の四季 春夏の風物」を開催しますが、日本人は自然との深い関わりの中で文化を育んできました。それは三十一文字に凝縮された和歌が象徴するように、自然に心情を重ねて表現するという伝統があります。美術作品にもそのような伝統が反映されていることはいうまでもありません。それ故、花鳥風月を表現した作品が好まれ制作されたのです。今回展示する作品にもそのような意味合いを感じていただけるのではないのでしょうか。

ここに紹介する作品をはじめ、二十点を展示します。雪舟筆と伝えられる重要文化財の四季花鳥図屏風は、右隻には松・椿・蓮に鶴・雀・鷺・鳩・鶺鴒・燕などが、左隻には竹・葦・菊・芙蓉に鶴・雁・翡翠・鶺鴒・百舌などの花木や鳥が躍動的に描かれています。数ある雪舟系の花鳥図屏風の中で、古くから雪舟真筆とされる作品の一点で、古くから前田家に伝わる名品です。四季の表現とともに、吉祥の意味を持つ花木に、番や親子の鳥を描くことで、不老長寿や夫婦和合、子孫繁栄などを花鳥画に意図したことがわかります。モチーフを大胆にクローズアップした表現と豊かな装飾性は、観る者に迫る確かな存在感があります。

主な展示作品

観音羅漢像

寿老・鶴図

鷹狩図(夏の景)

障子文金銀象嵌鏡

黒塗村梨子地桜寿帯鳥文蒔絵鞍・鏡

瑠璃地草花文平鉢 餅花手

色絵絵替中皿 古九谷

黒塗布目引出絵替絵具筆筒

蒔絵三十六歌仙花卉文提重

白隠

佐々木泉景

六代梅田九栄

伝二代五十嵐道甫

引き続き、春の優品選と題した展示です。前期から一部の作品を入れ替えて、絵画・書・工芸など館蔵品・寄託品の十点を展示します。

蒔絵梅鉢紋女儀御輿 伝加賀藩細工所

加賀藩十四代藩主前田慶寧の六女貞姫が、生後三月で専光寺に養女として入った際に使用されたものといわれています。幕末の加賀藩細工所における各部門の細工人の技術を結集して作られたものです。黒漆塗の地に、加賀藩の紋所である梅鉢を金の高蒔絵で全面に配し、それを唐草文様でつないでいます。唐草の葉は金の薄肉高蒔絵で、ところどころ梨子地や螺鈿の技法で夜光貝をあしらひ、金の薄い切金を張りつけてある部分もあります。内部には女性にふさわしく、胡粉彩色で唐子遊び図が描かれており、いかにも女儀御輿としての優雅さと気品がうかがわれます。

兎福寿草図 岸駒

福寿草の咲く岩場に遊ぶ、三羽の兎を写実的に描いています。岩に生えた苔や草もひとつひとつきわめて丁寧に描かれています。遠くを見つめる一羽の白兎と、かたわらの福寿草で戯れる一羽の白兎の間で黒兎が天を仰いでいます。記された落款から、中国の明の時代に花鳥画で一世を風靡した呂紀の筆法に倣ったことがうかがえ、天明二年(一七八二)、二十七歳でこの作品を描いたこともわかります。「蘭齋」と称していた頃の岸駒初期のもので、若くして一派の祖をなす力量をすでに備えていたことを示す作品でもあります。

主な展示作品

前関白師実歌合切

松樹禽鳥図

扇面貼交図

田舎清閑図

狩野永徳

松村呉春



兎福寿草図(部分) 岸駒

常設展示室(第2展示室)

特集

春の優品選

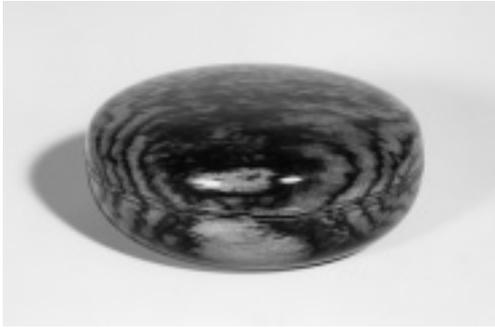
4月22日(木)~5月16日(日)後期

常設展示室 第5展示室)

特集

木の表情

4月22日(木)~5月16日(日)



黒柿造食籠 川北良造

南北に長く伸びた日本は気候的に多様で、生育する木の種類が豊富です。しかも四季の移り変わりがはっきりしているのです。木には明確な年輪ができ、きれいな木目を持つ良材に恵まれています。

木は種類によって、堅さ、色、強さ、粘り、木目の様子など、それぞれに違う表情を見せてくれますが、木工芸の特色は、この素材の持つ自然の美しさを、完成した作品に素直に生かすことにあります。どの部分にどんな木目が表れるのか、色合いはどうか、手取りの重さや肌触りはどうかなど、他の工芸と違い、加飾に頼ることがあまり出来ない分、素材には厳しい目が向けられます。素材の十分な吟味に始まり、指物(さしもの)、挽物(ひきもの)、曲物(まがもの)といった技術を駆使して完成された形態や意匠。それらを味わうのが、木工芸の醍醐味といえるでしょう。

それぞれに個性ある木の表情は、作品にどのように生かされているのでしょうか。今回の特集では木工の所蔵品の中から、木の種類別に十作家約二十点を選んで展示いたします。木に魅せられた作家たちの、優れた感性と技をご鑑賞下さい。

主な展示作品

- | | | |
|----------------|--------|------|
| 紫檀硯匣 | 初代池田作美 | 昭和27 |
| 黄楊木透彫華実春秋文宝石入筥 | 初代池田作美 | 昭和7 |
| 亀甲透飾筥 | 二代伊藤伊齋 | 昭和21 |
| 櫻造盛器 | 川北浩一 | 昭和47 |
| 黒柿造食籠 | 川北良造 | 昭和58 |
| 櫻造筋変り菓子取皿 | 筑城良太郎 | 大正 |
| 唐松造砂磨棚 | 水見晃堂 | 昭和43 |
| 桑造軸箱 | 水見晃堂 | 昭和49 |
| 板造八稜箱 | 水見晃堂 | 昭和31 |
| 神代櫻拭漆盛鉢 | 水上莊詠 | 昭和55 |

前田育徳会展示室

特集 春の優品選(後期)
3ページをご覧ください。

第1展示室

●色絵雄香炉
色絵雌雄香炉
野々村仁清
野々村仁清

第2展示室

色絵鶴がるた文平鉢 古九谷
青手樹木図平鉢 古九谷

特集 春の優品選(後期)
3ページをご覧ください。

第3・4展示室(油彩画・素描・彫塑)

油彩画
ロバと二人 奥田憲三
春蘭 小糸源太郎
パリ島の踊り 南 政善

素描
タイ・ビルマスケッチ(人物・風俗) 高光一也

彫塑
マリイの娘 南 政善
春を包む 宮本三郎
或る男 高木幸成
雲に漂う 木村珪二
吉田三郎

第5展示室(工芸)

葆光彩磁臺草文細口花瓶 板谷波山
萌春時絵水指 寺井直次
友禅訪問着「あじさい」 木村雨山

特集 木の表情
上段をご覧ください。

第6展示室(日本画)

●日本画
咆哮 木島桜谷
大楠公・義貞公誠忠之図 久保田米僊
富士巻狩図 村田丹陵

観覧料

| | | | |
|--------------|----|--------------|-----------|
| 一般 350円 | 個人 | 一般 280円 | 団体(20名以上) |
| 大学生 280円 | | 大学生 220円 | |
| 高校生以下は 無料 | | 高校生以下は 無料 | |



富士巻狩図 村田丹陵



ロバと二人 奥田憲三

常設展示室

主な展示作品

4月22日(木)~5月16日(日)

●=国宝 =重要文化財
=石川県指定文化財

● 連続講座報告・第4回 ●
開館20周年記念連続講座
「美術館よもやま話」
講師：嶋崎 丞(当館館長)

人間国宝あれこれ(1月18日)

私どもの美術館は今年満20周年を迎えました。その最後を飾る展覧会ということで、石川の地域的な特性を鑑み、石川・金沢は工芸王国ということから、人間国宝の展覧会ということになったのです。「北陸の人間国宝展」出品作品の60パーセント以上が私どものコレクションです。このように一堂に展示して、比較しながら鑑賞するという機会は滅多にないと思います。とくに松田権六さんの蓬萊之柵をケースから出して、直接ご覧いただいています。近年、昭和のものが重要文化財になりつつありますが、工芸分野ではその一番手の候補と思われる作品です。

戦後、文化財保護法ができて、従来の国宝が、新たに国宝・重要文化財となりました。その機会に有形文化財に対して、無形文化財の制度もできました。ものを造るための手わざ、技術があって初めて優れた建造物や作品ができあがる。その技術を保護するための無形文化財制度です。もの造りのわざを認定し、その技術をもった人の中でも最も優れた人を重要無形文化財、すなわち人間国宝として認定したのです。

かたや芸術院会員という制度があります。芸術作品の創作性にウエイトを置いており、芸術的観点で価値の高いものづくりに業績のあった人が就任しています。人間国宝は、工芸技術のうちで特に芸術上の価値の高いもの、特に重要な位置を占めるもの、地方色の強いものという条件のいずれかに当てはまるものとされています。創作技術という視点というよりも、文化財としての技術を保存することに重点をおいているのです。

人間国宝の方は、自分の持てる技を後継者育成というかたちで後世に伝えていく義務が課せられています。またその技術を表現したものである作品を、日本伝統工芸展や人間国宝新作展で発表しています。

日本では、経済成長の盛んな時に大量生産によってコストを下げるかたちのもの作りを進めてきました。便利な新技術の開発に重点がおかれたのです。一方、手作りの仕事はどうしてもコストが高くなります。人間国宝の手わざが経済的な用途と価格だけで議論されると話にならないことになってしまうのです。大量生産や使い捨てではなく、人間の本来のもの作りにおける精神性を再評価する時代、また評価を展開していく時代に今後向かうわけですが、工芸技術の保存、伝承、育成を進めつつ、工芸はその時代時代に応じてどうあるべきかということ議論し、人間国宝制度の新たな方向付けをしていく時期にきているのではないかと思います。

石川の美術を彩る作家たち(2月22日)

明治以後の石川の美術を考えた場合、大きく3つの時期に分けることができるのではないかと思います。「明治期」「大正と昭和前期」、そして「戦後」の3つです。

「明治期」には銅器会社が発足しています。江戸時代にはぐくまれてきた素晴らしい工芸の技術を、後世に残すために石川県と金沢市が共同して明治10年、金沢銅器会社をつくったわけです。

また石川には素晴らしい工芸技術の伝統があり、そこに新しい近代の感性を吹き込むことで、新しい石川の美術の展開を図るという目標のもと、明治20年に金沢工業学校ができます。今日の石川県立工業高校の前身です。

金沢銅器会社の時代、工芸の技術に、今日風にいえば、「情報発信しながら生産活動を続けよう」というかたちの中で生まれてきたのが「博覧会」です。ヨーロッパにおける万国博覧会、国内の内国勸業博覧会へ出品することで、地元の工芸育成・振興をはかろうというのが明治における石川の為政者の考え方でした。ところが、こうした出品だけを進めると、手仕事だけの世界、いわゆる「職人技」に終わる恐れがあり、それを避けるために創造的な感性を盛り込むべく、金沢工業学校を開校したわけです。

素晴らしい教育、そしてその実践のために多くの指導者を呼ぶ必要がありました。彼らは図案科の教師として、工業生産の中にデザインを盛り込むアドバイザーとしての役割を果たしていきました。本格的な日本画の技術教育ではなく、デザインのためのベースとして写生が必要であり、そのための日本画の技術ということでした。この流れは、戦後の石川県立工業高等学校にも引き継がれていきます。

明治40年に文部省展覧会が初めてできました。今の日展の原点で文展と呼ばれました。文部省主催により、日本画・洋画・彫刻を対象とするもので、県工や師範学校を出たスタッフが、徐々に文展に参加していきました。彼らに養成された子供たちは「大正」に入って見事な活躍をすることになります。

大正13年には、金城画壇展が石川県商品陳列館で開催されます。文展やそれに続く帝展に出品する絵画の作家が育ってきて、その人たちの研究の場として金城画壇が結成されたことによるものです。

終戦直後、石川県では第1回の現代美術展が開かれます。石川県は戦災に遭っていませんので、県単位の展覧会としては最も早くスタートすることになりました。もちろん作家活動もスムーズにスタートを切ることができています。

戦前から続いていた文展、帝展は、戦後の昭和21年、日展として再スタートします。石川県からは早々に出品者がそろい、30年にかけて日展に入選、また特選を受賞する作家が数多く出るなど石川の活動がじつに見事に展開されていることがわかります。

図書閲覧室NOW

今月の新着図書紹介

今回は、最近寄贈を受けた図書の中から2冊、紹介してみたいと思います。

まず「韓国国立中央博物館所蔵 日本近代美術展 / 2003 / NHK、朝日新聞社」は、韓国ソウルにある中央博物館の所蔵品の中から、日本の近代美術作品70件を紹介した展覧会図録です。同館には、終戦前の日本の美術品約200点が保管されており、その中から今回は、横山大観や鍋木清方、前田青邨などの日本画45点と、さまざまな種類の工芸品25点で構成されています。とくに注目されるのは、当県ゆかりの工芸作家の戦前期の作品が含まれていることです。漆芸では松田権六、前大峰、藤井観文、染織では木村雨山、金工では魚住幸兵(二代為楽)らの、30～50代にかけて制作された貴重な作品が目を引きまします。「幻のコレクション」といわれ、近年まで未公開であったこれらの作品は、この展覧会によって、半世紀の時の流れを超えて里帰りを果たしたといえるかもしれません。

もう一冊は、「東京都江戸東京博物館資料目録 双六 / 2001 / 同館」です。“すごろく”と聞くと、なつかしい響きを持った言葉として感じられる方も多いと思います。今日の遊び文化の中から、忘れ去られつつある遊戯具の一つですが、その多彩な構成や表現は、今でも見るものの眼を楽しませてくれます。本図録は、江戸東京博物館が収集した双六約300点をオールカラーで紹介したもので、江戸から昭和に至る実にさまざまな内容のものが掲載されています。古くは木版による錦絵として、近代に入ると印刷技術の進展にともなって写真製版による出版物として制作されてきました。これらは絵画資料としても注目されますが、多くの情報を内包した歴史資料としても貴重で、その表現にはそれぞれの時代が如実に反映されているといえましょう。

開室時間は午前9時30分～午後4時30分。
貸出し、コピーサービスは行っておりません。

各地の展覧会.....5月

- 開催日程、休館日、内容等は直接各館へお問い合わせ下さい。
- | | |
|------------------------------|--------|
| 知られざるロバート・キャパの世界 | 5/16まで |
| 東京都写真美術館(目黒区・03-3280-0099) | |
| ピカソ、マティスと20世紀の画家たち | 5/16まで |
| 福井県立美術館(福井市・0776-25-0452) | |
| 新選組!展 | 5/23まで |
| 東京都江戸東京博物館(墨田区・03-3626-9974) | |
| ベン・ニコルソン展 イギリスの詩情・重奏するかたち | 5/23まで |
| 愛知県美術館(名古屋市・052-971-5511) | |
| 上村松園展 | 5/23まで |
| 三重県立美術館(津市・059-227-2100) | |
| 東山魁夷 ひとすじの道 | 5/23まで |
| 兵庫県立美術館(神戸市・078-262-0901) | |
| ヴァチカン美術館所蔵 古代ローマ彫刻展 | 5/30まで |
| 国立西洋美術館(台東区・03-5777-8600) | |

展覧会回顧

開館20周年記念

北陸の人間国宝展

開館20周年を迎えた本年度の最後を飾る企画展「北陸の人間国宝展」は、期間中約6000人の入場者を迎え、盛況のうちに無事閉幕しました。

人間国宝をテーマにした展覧会は、「石川の人間国宝展」(平成元年)以来です。その当時の認定者は11人。今回はその後新たに認定された6人、歴史的地理的にも縁の深い富山と福井の4人、さらに石川県とゆかりの深い2人の、計23人を紹介するという大がかりな企画で、出品点数も実に155点を数え、一人当たり7点前後の出品という、かつてない豪華な展覧会となりました。

何といっても「蓬萊之櫛」(松田権六作)のオープン展示が一番の話題だったでしょう。ふだんは年に一度、常設展示室で公開していますが、ガラスケースから出しての展示は、開館以来初めてのことです。安全管理や埃対策などには、ずいぶんと頭を悩ませましたが、その甲斐あってか大変な好評でした。作品の裏側や、天板裏の鮮やかな蒔絵部分など、これまで直接目に触れることが出来なかったところも間近でお見せすることができ、十分にご堪能いただけましたことと思います。

また期間中後半には、銅鑼の音の鑑賞会を5回開きました。他の工芸作品と違い、銅鑼の値打ちはその素晴らしい響きにあります。10年ほど前にも、銅鑼を一堂のもとに集めた展覧会を開催したことがありますが、その時は録音された音しかお聞かせできませんでした。そこで今回は初代と三代の魚住為楽さんの名品の音色を、これも展示室で初めて公開いたしました。お茶席での作法通り「大小大小中中大」の順に7点を打ち、あわせて解説も行いましたが、めったにない企画とあって、毎回たくさんの皆様ご参加下さいました。三代為楽さんも何回かお見えになり、飛び入りで自らたたいて下さって、場内を大いに沸かせました。

特に期間中後半は、大雪に見舞われたにも関わらず大勢の皆様がご鑑賞下さり、改めて伝統工芸に対する関心の高さを痛感いたしました。ここにお世話いただきました関係各位に、深く感謝申し上げます。

(前田武輝 学芸専門員)



オープン展示された「蓬萊之櫛」(第8展示室)

ミュージアムコンサート

平井み帆 チェンバロ・リサイタル
「春・夏の風物に寄せて」

日 時 5月9日(日) 午後1時30分～
場 所 石川県立美術館ホール
演 奏 者 平井み帆:チェンバロ
演奏曲目 クープラン作曲クラヴサン曲集から
「田園詩」「気のない郭公」ほか
入 場 料 参加は無料ですが、入場整理券が必要です。

応募締切は、4月27日(火)必着です。詳しくは先月号だよりと同封の「ミュージアムコンサートのお知らせ」をご覧ください。

人事異動

今年度の当館人事異動は下記の通りです。

転入

総務課
総務課長 安島 武(地労委総務調整課より)
主 事 石和英史(県警察本部運転免許課より)
学芸課
学芸主幹兼学芸第一課担当課長
末吉守人(糸南小学校より)

転出

総務課
総務課長 中島義人(産業立地課へ)
主任主事 伊藤 直(中央病院医事課へ)

新規採用

総務課
嘱 託 田中久蔵、泊 雄平、舟木義忠、
吉田 修、中村金作
臨 時 林かほる

退職

普及課
普及課長 寺尾健一
総務課
嘱 託 宿波亨次、松本良隆、井村輝夫、
小山暉雄
臨 時 岩本真希子

第1回美術館バスツアー

～能登の美術工芸品を訪ねて～

期 日 6月13日(日)
参 加 費 7,500円 会員外は7,800円
募集定員 45名(対象は原則として成人)

見学予定地

来迎寺 穴水町)
庭園は江戸初期の作で石川県指定名勝。阿弥陀如来坐像は、平安時代末期の作とされている。
石川県輪島漆芸美術館(輪島市)
日本唯一の漆芸を専門とする美術館。展覧会「漆に魅入られた女たち」を開催している。
南惣美術館(輪島市)
奥能登大野村の天領庄屋であった南家が所有する美術工芸品を展示している。
金蔵寺(輪島市)
およそ1300年前、行基菩薩により創建されたと伝えられている。不動明王坐像、不動明王立像は、輪島市指定文化財。
法華寺(柳田村)
承和元年(837年)に薬師坊として改創された。不動明王坐像は重要文化財。
平等寺(柳田村)
紫陽花寺として知られている。聖観世音菩薩、大般若会本尊画幅、古稀寿の墨跡がある。

申し込み方法

往復はがき下記事項をご記入し、ご応募下さい。参加証を発行します。応募多数の場合は抽選となります。

往復はがき裏面に美術館バスツアー希望と明記し、住所・氏名・年齢・会員番号をお書き下さい。
返信はがきの表面には、返信先(住所・氏名)をお書き下さい。
返信はがきの裏面には、何も書かないで下さい。

応募先 〒920-0963 金沢市出羽町2-1
石川県立美術館 美術館バスツアー 係あて
応募締切 平成16年5月20日(木)必着
応募希望者1名につき、往復はがき1通でご応募下さい。
お一人で何通も出されたものや、連名のもの、記載事項が不備なものなどは無効となりますのでご注意下さい。
当館からの返信は、再発行いたしません。

5月の行事案内 《入場無料(ギャラリートークを除く)・いずれも午後1時30分から行います》

| 月 日 | 行 事 | 内 容 | 会 場 |
|---------|-------------|--|-------|
| 5/2(日) | 月例映画会 | 日本の美術工芸 その手わざと美(28分) 宗達・空間の魔術師(23分) | ホール |
| 5/8(土) | キッズ プログラム | 鑑賞講座「木の表情」 (西ゆう子 学芸主任) 小学生対象の講座です。常設展示を鑑賞しながらの作品講座になります。 | 講義室 |
| 5/9(日) | ミュージアムコンサート | 平井み帆 チェンバロ・リサイタル 「春・夏の風物に寄せて」 入場整理券が必要です。普及課までお問い合わせ下さい。 | ホール |
| 5/15(土) | 美術講座 | 加賀文化の開華(等伯・道甫・仁清) (嶋崎 丞 当館館長) | 講義室 |
| 5/16(日) | 月例映画会 | よみがえる光琳屋敷(35分) 荒川豊蔵と志野・瀬戸黒 よみがえる桃山の美(23分) | ホール |
| 5/22(土) | ギャラリートーク | 漆の美 (高嶋清栄 学芸専門員) 展示室内で行われるため、企画展示の入場料金が必要です。 | 常設展示室 |
| 5/23(日) | ビデオ鑑賞会 | 国宝2 法隆寺 救世観音と百済観音(30分) | ホール |
| 5/29(土) | 美術講座 | 加賀の工芸 (寺川和子 学芸主任) | 講義室 |
| 5/30(日) | 月例映画会 | ここに画家ファインアイクありき 北方ルネッサンスの誕生(23分) | ホール |

5月の全館休館日は17日(月)～19日(水)です。

堀柳女氏は明治30年(1897)東京都に生まれま
した。絵画を荒井紫雨、竹久夢二に、詩を西脇
順三郎に学びます。竹久夢二との出会いから、
立体的造形を求めて人形制作への道へと進むこ
とになります。その後、持ち前の旺盛な研究心と
鋭い感性で、東洋の古典から題材を得た繊細で幻
想的な、情趣溢れる作品を発表していきます。

昭和11年に帝展初入選以後、日展・日本伝統
工芸展で活躍し、30年(1955)には衣裳人形で重
要無形文化財保持者に認定されます。

木彫衣裳人形とは、桐材で全体を頭・胴・手
足を一木または別々に素地を造り、木地が露出
する顔や手足などの部分には胡粉^{にかわ}を膠で溶いて
塗り肌を仕上げます。髪・眼・口などの部分に
は彩色仕上げを施します。胴体部分は、古裂な
どの衣裳を「着せつけ」又は「木目込み」によ
って着せさせ仕上げます。

この作品は作者の得意とする衣裳の文様にア
プリケの技法で渦紋(うずまきの模様)をあら
わし、衣裳の細かな陰影を出すために全体にネ
ットを張って、その質感や重量感などを巧みに
表現しています。

また、入念な胡粉仕上げで整えられた美しい
顔や手足、その動き、やや下を向いた顔の表情、
ところどころにアクセントに飾られているアク
セサリーなどの装飾、全体に絶妙なバランスを
保っている姿態の構成も見事です。



もくちょう いしょうにんぎょう かもん
木彫衣裳人形「渦紋」

ほり りゅうじょ
堀 柳女 明治30年(1897)~昭和59年(1984)

昭和34年 1959
第6回日本伝統工芸展
幅29.0 奥行16.3 高さ41.0(cm)

移動美術展 今年は能都町で開催!

今年度の移動美術展は能都町で開催されます。日本画・油彩
画・水彩・素描・版画・彫刻・工芸の各分野より、約50点を展
示します。移動美術展は、県立美術館の所蔵品を県内の会場へ
移動し、展示するかたちで毎年行われています。能登各地にお
住まいで、なかなか当館を訪れることのできない方、すばらし
い作品を間近に鑑賞できるこの機会をお見逃しのないように。

皆様のご来場をお待ちしております。

会場 能都町立羽根万象美術館
会期 5月30日(日)~6月6日(日)
入場料 無料
主な展示作品

| | |
|--------|-------|
| 飛鳥をとめ | 安田鞞彦 |
| カサブランカ | 高光一也 |
| 熱叢夢 | 宮本三郎 |
| 裸婦 | 鴨居 玲 |
| 軍鶏 | 長谷川八十 |
| 松蒔絵飾箱 | 松田権六 |



舳倉島夕礁 羽根万象

次回の展覧会

特集 甲冑と陣羽織 (前田育徳会展示室)

特集 漆の美 (第2展示室)

5月20日(木)~6月13日(日)

休館日: 5月17日(月)~19日(水)

石川県立美術館だより 第247号

2004年5月1日発行

〒920-0963 金沢市出羽町2番1号

TEL 076(231)7580 FAX 076(224)9550

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>